

神奈川・北条小町邸跡

ほうじょうこまちてい

1 所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下一丁目

2 調査期間 一九九六年(平8)八月―一〇月

3 発掘機関 鎌倉市教育委員会・北条小町邸発掘調査団

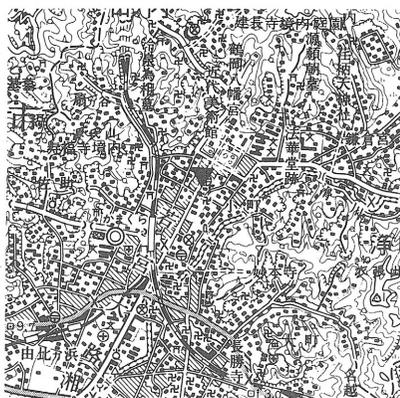
4 調査担当者 原 廣志

5 遺跡の種類 居館跡

6 遺跡の年代 鎌倉時代―江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は鶴岡八幡宮前面で若宮大路東側の地域にあたり、北辺を横大路、西辺を若宮大路、東辺を小町大路に囲まれた、一辺二〇〇m



(横須賀)

程の一画内に含まれる。この一画は、鎌倉時代中期から後期に若宮大路幕府(御所)、または執権北条泰時や時頼らの正亭所在地ともいわれ、鎌倉の政治的中心としてもつとも重視された場所である。調査地点は遺跡内の若宮大路に面した南

西隅の一角に位置する。

検出した遺構は、大別して鎌倉時代と江戸時代に分かれるが、木簡が出土したのは鎌倉時代の若宮大路の東側溝からである。鎌倉時代前期の側溝は、現在の大路歩道に接した幅3mで逆台形の箱掘と、その東側にあるV字形の葉研掘の溝である。鎌倉時代中期以降は、これらを埋めて若宮大路が拡幅され、側溝は木組み構造に変化している。木組み側溝は箱掘状にした掘形底の両脇に約3m幅で、ほぞ穴を切った長さ4m程の土台材(角材)を据え、ほぞ穴に束柱を立て、地表の高さで束柱上にほぞ空きの角材をのせ、外側の土壁を横板材でおさえており、少なくとも三回の造り替えが認められた。木組み側溝は、出土遺物からみて南北朝時代前期までは存続していたようである。

遺物は、それぞれの側溝を中心に、かわらけ、舶載陶磁器、渥美・瀬戸・常滑窯の国産陶器のほか、木器も大量に出土した。木器には、漆器皿・椀、漆塗り櫛、下駄、箸、曲物などがある。かわらけには内面に「即」を連書した墨書土器がある。

木簡は五点出土したが、いずれも木組み側溝からである。これらは側溝底部の土台材の継ぎ目付近から出土した。このうちの一点は笹塔婆である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「一丈□□」
512×(48)×5 051
- (2) □□□□□□□□_カ□□_カ
(271)×(57)×7 081
- (3) □□の□□_カ
(275)×55×5 059
- (4) □□□□□□□□□□_カ
(302)×(26)×3 081
- (5) 「<南無薬師如□□」_カ
(380)×22×3 061

(1)は大型で、上端は両角をやや削り、下端を両側から削って尖らせている。(2)(3)も折損しているが、(1)に近い形状と考えられる。(5)は上端を圭頭状に削り、二カ所に左右の切り込みをもつ。遺跡内の大路沿い二地点からは、「一丈伊北太郎跡」や「二けんおおぬきの二ろう」などの若宮大路側溝の工事に際し、幕府が御家人に分担・奉仕させた負担工区を表示した木簡が出土している(本誌七・一八号)。今回出土の木簡も多くが判読不能ながら、出土地点その形態や内容から比較して同じ性格のものと考えられる。

9 関係文献

鎌倉市教育委員会『北条泰時・時頼邸跡』(一九八五年)
同「北条小町邸跡(泰時・時頼邸)」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 平成七年度発掘調査報告(第二分冊)」(一九九六年)

(原 廣志)

